

6

Dec 2003

素顔の阿蘇を探す旅。



# 大陸

ASO Continent

"素"はすべての原点、"モ"は蘇生。  
阿蘇は原点に返って姿を現す場所。  
素顔の阿蘇に触れ、  
自分自身を探してみませんか。

# 阿蘇カルデラツーリズム

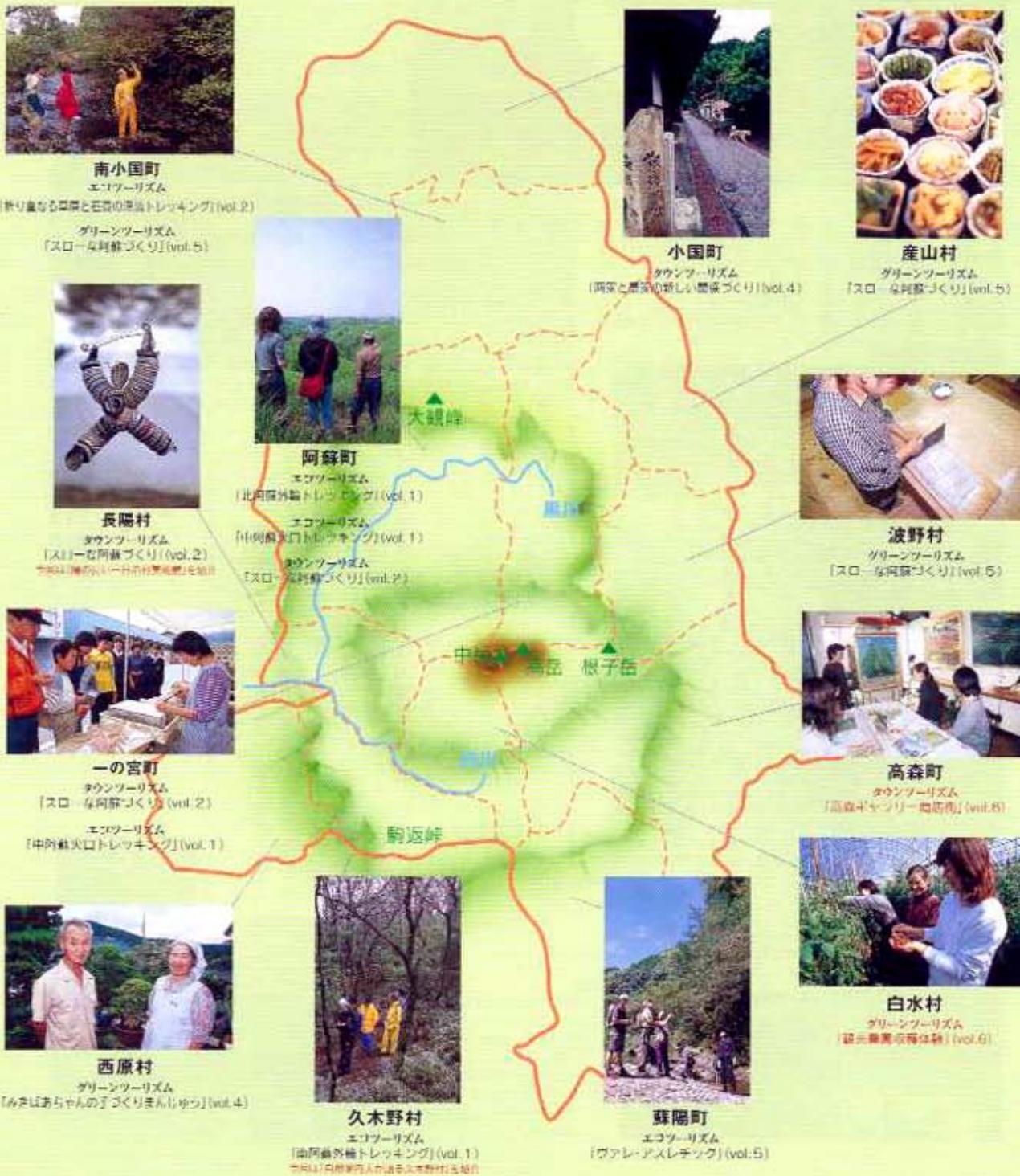
街の中心部である商店街を散策し

街の中心部である商店街を散策したり、道行く人たちとの交流を堪能する「タウンツーリズム」、地域の自然や文化に敬意をはらい、阿蘇の大自然をありのままに体感する「エコツーリズム」、観光農園や農家民宿など、阿蘇地域の農村の暮らしを体験し、そこで暮らす人と触れあう「グリーンツーリズム」。阿蘇カルデラツーリズムとはこれらのツーリズムの総称で、一次産業をベースに産業の複合化を図り、地域の経済基盤を作っていく活動もある。歩いたり、自転車で走るスピードで地域を散策するト、風が肌に触れ、いつもとは違った風景が視界に飛び込んでくるのを感じるはず。「ゆっくり」「のんびり」は自然の細部やそこに暮らす人を深く知るためのキーワード。阿蘇カルデラツーリズムには、これまでの「観光」はない。素顔の阿蘇に触れる」という新しい旅の魅力が備わっている。



## 阿蘇12町村のカルデラツーリズム紹介

「ASO大陸」では1号より、阿蘇地域における様々なソーリズムを紹介してきました。今回6号で登場する「長陽村」「白水村」「高森町」「久木野村」を合わせると、阿蘇12町村のカルテラツーリズムが完結します。そこで、過去に紹介したものも含め、カルアラマップと写真でまとめてみました。



あそびミニトマト園  
1月～5月はイチゴ狩り。7月～10月はトマト狩り。完全予約制。入園は無料で、収穫した分を時価で貰い取る。

オアシスリンク園  
8月下旬から10月末まで、つがる・ふじなど5種類のりんご狩りが時期ごとに楽しめる。入園無料で、収穫した分を時価で貰い取る。

観光農園 ノースグレーブファーム  
シーズンは9月～10月中旬。入園は無料で収穫した分を時価で貰い取る。

※この他にも、白水村には収穫体験ができる観光農園が、まだあります



【左上】将来は喫茶レストランもと交流に意欲的な後藤真美子さん。【左下】「喜さんの喜ぶ顔が楽しみ」と話す若下さん。【右】北さんは、阿蘇の観光大使団の先駆けである

一步、ハウスの中に足を踏み入れると、清涼感のあるトマトの香りに驚く。

「トマト園だ。濃い緑の葉の中、つややかに赤いトマトが並ぶ。実際に見て体験して、販家のことを知つてほしかったんですね」と話すのは、

## 観光農園収穫体験 「どれたて」は香りも味も全然違う！ 交流がつくるおいしい時間



経営者の後藤真美子さん。「はじめは、よそからやつてくるお客様と交流なんてできるかな、という不安もあってたんです」しかし、「それでつて、香りも味も違うんだ」。収穫を、新鮮な感動で楽しむお客様の姿に励まされ、次第に自信も生まれていった。

「農家も、ただ作るだけじゃなくて、食べててくれる消費者が何を求めているかを考える時代ですね」。

「農家も、ただ作るだけではなくて、食べる人がいいな、うことで、自分が育っていく同じ人生なら、自分が成長していくのがいいな、ストラントもしたいで、白水村でできる収穫体験は、トマトだけではない。リンゴのお尻は空に向けて、クルクとこねてやる」と。はーら、とれたで



「水の失まれる里」と呼ばれる白水村でとれる農作物は特別。村内にある8ヶ所の水資源の一つである竹筋水道は、竹林が広がる中、黒い砂を吹きあげるように湧水する



グリーンツーリズム  
in  
白水村  
Green-Tourism in HAKUSU

ダンボールや瓶のフタなどから、かつじさんの作品は生まれる。まさに“エコアート”だ



佐藤子さんの自宅は、毎年10月1日～31日長陽村で開催される「陽の長い一日」期間中、池田さん自身の作品を展示したギヤラ

りに変身する。この雅しは、特別な施設を使わず、村のいたるところに彫刻や絵画、写真といつたアートを展示して訪れる人に楽しんでもらおうというものだ。

「遠くは北九州や東京からも



【左上】和の雰囲気でまとめた室内に大小さまざまな作家の作品がずらり  
【右上】「今年も見にきましたよ！」池田さんの自宅では訪れた人との会話をはずむ【下】長陽村板木地区では有志によるかかしの展示が行われた



長陽村在住の有志家長野良市さん。「アース・カーブ・ブリーゼ」主宰。日本有志家協会会員。板木の自然や人、民俗などを中心に作品を発表。有志家に「阿蘇」など、平成10年から「陽の長い一日の村美術館」企画委員長を務めてきた

タウンツーリズム  
in  
長陽村  
Town-Tourism in TYOYO

## 陽の長い一日の村美術館 作家と作品にふれる旅は終わらない

一見、「よく普通の民家だアプローチに車止め、玄関を見た瞬間、歓声が上がる。(わー、かわいい！)」鳥の巣や「兼持しながら作品が出現してくれるのだ。かすら作家である池田

佐藤子さんの自宅は、毎年10月1日～31日長陽村で開催される「陽の長い一日」期間中、池田さんが「ディスプレイに必要な花は持ってきてあげるし、誰力するから」と周辺に勧められた。

いました」かすらを始めたて10年、作品を披露することにためらいもあつたが、(ディスプレイに必要な花は持つてあげるし、誰力するから)と周辺に勧められた。

初回から出展している湯布院のダンボールアーティストが「じかの村美術館」の新作を発表して直接反応を知ることのできる貴重な場だ」という。

いらっしゃいます。昨年末の方が、今

一同日から」の催しの企画委員長を務めてきた長野良市さんは、熊本県

以外の地域の作家を取り上げること

りなかった」と話す。今年は初めて村の板木地区全体が参加地区の天誠さ

で、その作家のファンを含めた多くの人に長陽村を知つてもらう機会をつくりたかった。同時に、地元でがんばる作家たちの発表と交流の場をつくったかった」と話す。今年は初めて村の板木地区全体が参加地区の天誠さ

に開かれ、かかし展を行つた。

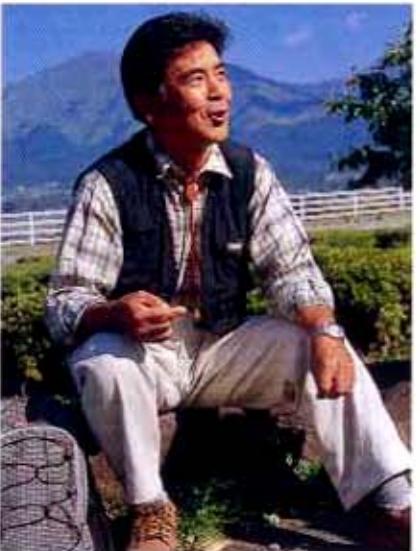
訪れる人と作家の交流、そして地元

同士の交流を育む催しでもある。



今回の「陽の長い一日の村美術館」プログラムの表紙。今月で6回目を迎えた。毎年10月に開催される

「全国エコツーリズム大会in阿蘇」の「南外輪のブナ林と巨木の森を歩くコース」で案内人を務めた吉澤康正さん



## エコツーリズム in 久木野村

Eco-Tourism in KUDONO

久木野村の風景は、人が自然と共に歩いた証です。久木野村の自然案内人のひとり、吉澤康正さんは語る。吉澤さんは久木野村生まれ。長年、久木野コシヒカリを作りに忙わってきた。吉澤さんの米はかつて南阿蘇を行っていた冬の寒い中、水田に水を張る「冬水ふゆみ」。山の草花を刈り取り、肥料とする「刈穂(かしき)」の手法を再現したものだ。

その吉澤さんが、自然案内人を務めるようになつたのは、趣味であるキャンプがきっかけ。吉澤さんはこのキャンプ活動から、山に自分だけの場所で咲く花や風景」という物があることを知った。

久木野村という人と森が共存する森を歩くのに、車に自然の風景として楽しむだけでは、もつたない。「日に日に移り変わる紅葉や、早春のなり雪を踏みしめるながら歩く山道」。このツアードラムで、山の姿を多くの人に届けられた。吉澤は、かつての生業を語る。「山は人々の生活の博覧館。久木野の生活文化を、山から感じてほしい。案内人が伝えることは、自然の豊かさだけではない」。

久木野村といふ人との森が共存する森を歩くのに、車に自然の風景として楽しむだけでは、もつたない。「日に日に移り変わる紅葉や、早春のなり雪を踏みしめるながら歩く山道」。このツアードラムで、山の姿を多くの人々の生活や文化を、山から感じてほしい。案内人が伝えることは、自然の豊かさだけではない」。

自然案内人が語る久木野村  
「自然の姿」だけではない  
文化と生活も山からの「宝物」

「全国エコツーリズム大会in阿蘇」の「南外輪のブナ林と巨木の森を歩くコース」で案内人を務めた吉澤康正さん



「体験交流センター・四季の森」は久木野村のエコツーリズムの拠点でもあり、レンタサイクルも行っている



南阿蘇鉄道の終点、高森町へ出迎え

てくれたのは、地元の案内人、安方勝美さんだ。高森のまちをもっと楽しんでほしいということだ。二つの散策コースをつくってこ築内してるので、吉澤アラリーと名打って、毎年開催される大阿蘇絵画展の優秀作品の展示を行っている。もう一つは猿田彦大神や火伏地蔵さんなどを訪ねる「路地裏散策コース」。

この猿田彦様は旧道との分かれ道に立つて道案内をされているんですよ。安方さんの解説に参加者は猿田彦大神や火伏地蔵さんなどを見学しているんだですよ。



「スローな阿蘇づくり」の交遊実績に合わせて、11店舗に27枚の絵画が飾られている

## タウンツーリズム in 高森町

Town-Tourism in TAKAMORI

高森ギヤラリー商店街  
静寂のなかで心洗われる座禅体験と  
まちの魅力を再発見するまちかどギヤラリー

は「うーん、なるほど」。  
高森寺散策コースの終点であるお寺では座禅体験もできる。始端とは無縁うそ、そのまま笑顔の住職に座り方を教えてもらっている。よいよ体験開始時間は本式の約半分の20分間。礼参り挨拶をして、お寺の内側を水で洗われたような

心洗われるような思いを抱いて、再びまちの中へ。まちかどギヤラリーの一つであるレストラン「ディアートハウス」の店主伊藤紹里さんは、「高森にはおいしいものもステキな風景もなく、また、十分に活かされている。もっとないですね」。ゆっくり歩く

「お寺の神様だから分かれ道にあるんですよ」。案内人の説明にうなづく参加者

のとき、体の内側を水で洗われたよう

なすかしさを感じる。

「どうでもいい」とおっしゃるお寺の神様だから分かれ道にあるんですよ」。案内人の説明にうなづく参加者

のとき、体の内側を水で洗われたよう

なすかしさを感じる。

「どうでもいい」とおっ

# ASO Design Center Information

(財)阿蘇地域振興デザインセンターは阿蘇郡12町村の地域づくり、観光振興、環境・景観保全、情報発信を行なっています。



このマークは、A=阿蘇の火山(赤)・S=川から流れる川(青)・O=満う平原(緑)という3つの阿蘇の自然をシンボル化しました。

## 長陽村「陽の長い一日の村美術館」

村全体を大きな美術館と見立て、陶芸・写真・竹アート・かずら編み・木工など村内外の作家の作品を、温泉、駅、民家等をギャラリーにして展示します。週末には、ミニコンサートや子ども劇場、映画上映会などの他に、陶の器フェアーやフリーマーケットなどのイベントも行います。



期日●平成15年10月1日(水)～10月31日(金)

場所●長陽村一円 メイン会場は長陽村総合温泉センター「ウイス」  
お問い合わせ●陽の長い一日の村美術館実行委員会事務局  
(長陽村役場産業振興課内) TEL 0967-67-1111 内線151

## 白水村「おあしすフェスタ」

白水村内の産業文化祭。体育馆の中では村内の方々の作品展示や健康チェックのコーナー、野外では各種バザーやステージイベントなど盛りだくさんです。お米のつかみ取りコーナー等もあり楽しいひとときが過ごせます。



期日●平成15年11月2日(日)

場所●白水村農村勤労者センター(体育馆)  
お問い合わせ●白水村企画観光課 TEL 0967-62-9111

## 阿蘇新そば祭り

実りの秋、紅葉と共に阿蘇には11月から待望の新そばが一斉に出回る季節です。秋には“そば処”阿蘇で、紅葉を愛でながら、温泉に浸かって、香り高く、風味豊かな新そばを味わってみてください。

### なみの高原 新そばまつり

期日●平成15年11月中旬予定

場所●波野村 道の駅「神楽苑」駐車場  
お問い合わせ●波野村役場 農政課 TEL 0967-24-2001  
伝統芸能の神楽公演を楽しみながら、波野の新そばを味わってください。

### 久木野村 新そばまつり

期日●平成15年11月3日(月)「文化の日」(予定)

場所●久木野村「そば道場」周辺  
お問い合わせ●久木野村 産業振興課 TEL 0967-67-2111  
「そばかいわれ栽培セット」の販売や、そば料理が楽しめる食事コーナーもあります。

## もつあぐ開催!!

### 全国エコツーリズム大会 in 阿蘇

世界的大手トツリズム組織を有する阿蘇地域で自然と文化をテーマとした参加型観光交流である「エコツーリズム」全国大会を開催します。九州及び阿蘇地域におけるエコツーリズムの活性化や分科会、周辺内の説明施設を活用したハイキングコースを実際に体験できるなどございます。

日程  
10月5日(金)～11月2日(日)

主催  
国際観察青年なら及び阿蘇地域の観光交流協会

企画実行団体阿蘇地域振興デザインセンター Z.P.O.法人日本エコツーリズム協会

◆第一部 (会場・田舎の開拓者たちの夢)

◆第二部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第三部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第四部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第五部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第六部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第七部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第八部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第九部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第十部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第十一部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第十二部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第十三部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第十四部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第十五部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第十六部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

◆第十七部 (会場・阿蘇地域内での観光・交流施設等の開拓)

#### 【問い合わせ先】

「全国エコツーリズム大会in阿蘇」実行委員会事務局 (財団法人阿蘇地域振興デザインセンター内)  
TEL: 0967-22-4801 FAX: 0967-22-4802  
E-mail: asopost@asodec.or.jp

\*上記内容はあくまで予定です。今後変更する事もありますので、了承ください。詳しくは上記実行委員会までお問い合わせください。

5

月

ASO Continent OCTOBER 2003  
平成15年10月1日発行 情報発行◆(財)阿蘇地域振興デザインセンター TEL 0967-28-912 佐木真由美編集 10月◆(株)マイントレーディング